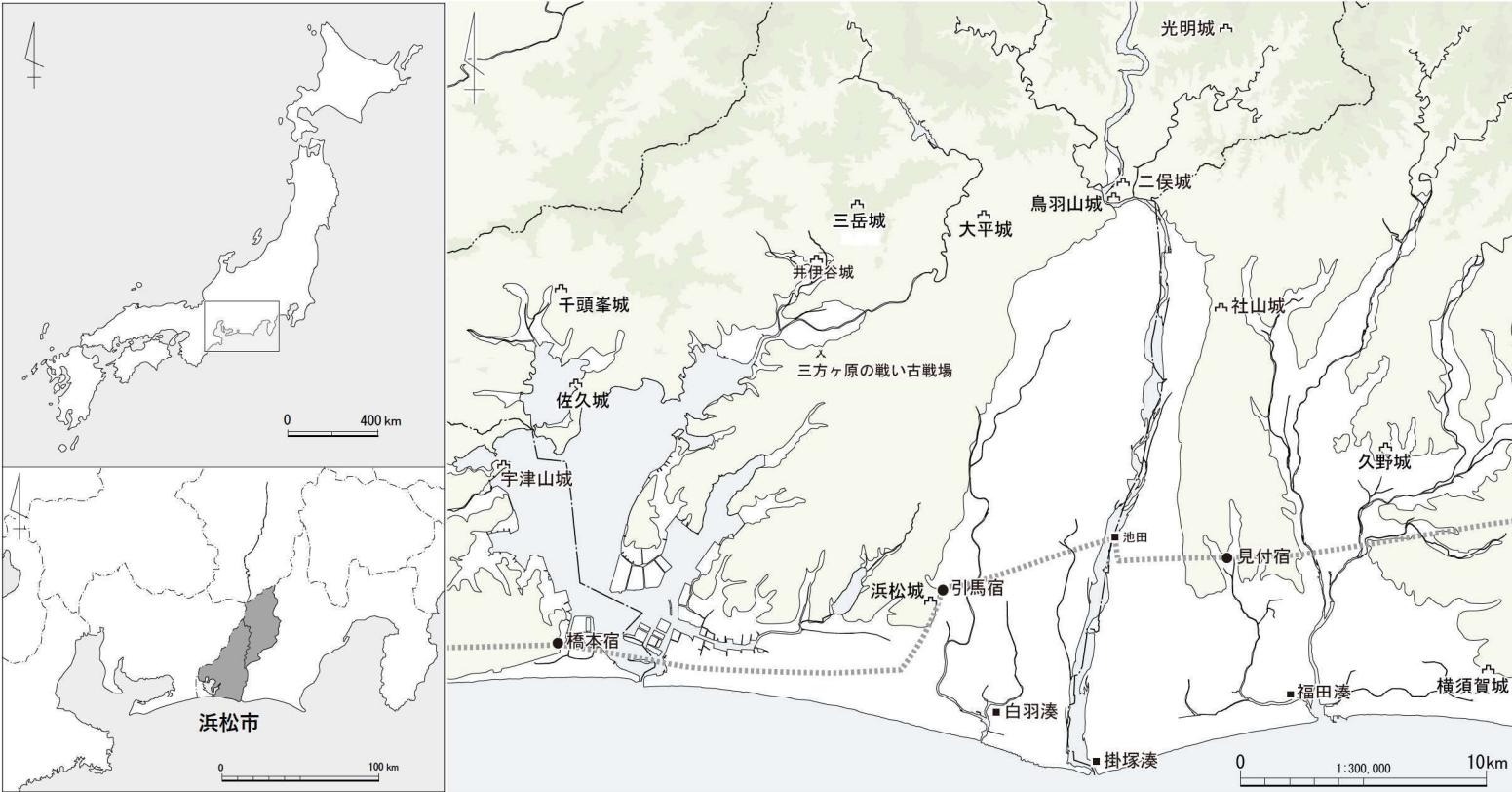


浜松の城と熊本城

熊本城調査研究センター（静岡県浜松市より派遣） 和田 達也

浜松市は、静岡県西部に位置し、市内には、約 100 ケ所の城跡や館跡、陣屋跡があります。浜松市内において城郭が初めてみられるのは南北朝時代のことで、南朝勢力の拠点になり、各地で攻防戦が繰り広げられたことが文献史料からうかがえます。戦国時代の遠江は前半期に斯波氏と今川氏が領有を争い、後半期には、今川氏、徳川氏、武田氏が領有を争いました。遠江を平定した徳川家康は、今川氏領有期に支城の一つだった引馬城を拡張し、浜松城を整備しました。駿府城に移転するまでの約 16 年間、浜松に拠点を置きました。関東へ徳川氏に移転した後、浜松市とその周辺を治めた堀尾氏は、浜松城とともに支城の二俣城・鳥羽山城も石垣や瓦葺き建物等を備えた城郭へと改築・整備しました。慶長 5 年（1600）の関ヶ原の戦い後、堀尾氏は出雲へ移転し、江戸時代を通じて譜代大名が浜松城を拠点に浜松藩を治めました。江戸時代の初め頃に浜松城以外の城郭は廃城になり、浜松城は浜松藩の拠点として整備が進められました。

浜松市にある石垣を持つ城郭（浜松城・二俣城・鳥羽山城）について、熊本城との比較を踏まえ紹介します。



浜松城跡・二俣城跡・鳥羽山城跡の位置と周辺の城跡

年代	時代	日本史上のできごと	浜松城に関連するできごと	二俣城・鳥羽山城に関連するできごと	熊本城に関連するできごと
1100	平安	鎌倉幕府開く（1185）		上級領主 笹岡に寺院建立か	上級領主 茶臼山に寺院建立
1200	鎌倉				
1300	南北朝	建武の新政（1333） 室町幕府開く（1338）			
1400	南北朝	南北朝合一（1392）			
1500	室町	応仁の乱（1467-1477） 明応の政変（1493）	このころ、引馬城築城か 今川氏親、遠江平定（1517）	北朝勢力、笹岡城攻略（1338） 今川氏、二俣城攻略（1506－1511 頃）	隈本城（南朝勢力の城・詳細不明）初出（1377） 菊池 井出氏、隈本城に在城（15 世紀後半－16 世紀初頭頃） 鹿子木親員、隈本城に在城（1520 頃か）
1560	室町	桶狭間の戦い（1560）		今川 今川氏、二俣城の要塞化がはじまる	大友 大友義鑑、肥後国守護になる（1543） 菊池義武、隈本城入城（1550） 大友義鎮、隈本城攻略 城親冬、隈本城主になる（1550）
1570	戦国	三方ヶ原の戦い（1572） 足利義昭追放（1573） 長篠の戦い（1575）	今川氏真、飯尾連竜を殺害（1565） 徳川家康、引馬城領有、拡張し、浜松城と改称（1570） 徳川家康、浜松城改築（1578-1581）	徳川家康、二俣城領有（1568） 武田信玄、遠江・三河侵攻 二俣城領有（1572） 徳川家康、二俣城領有（1575）	大友 大友義鑑、肥後国守護になる（1543） 菊池義武、隈本城入城（1550） 大友義鎮、隈本城攻略 城親冬、隈本城主になる（1550）
1580	安土・桃山（織豊）	本能寺の変（1582） 小牧・長久手の戦い（1584）	徳川家康、駿府城へ移転 浜松城城代に菅沼定政（1586）	徳川 徳川家康、二俣城領有（1568） 武田信玄、遠江・三河侵攻 二俣城領有（1572） 徳川家康、二俣城領有（1575）	島津 城親賢の援軍として、島津軍が隈本城に入る（1580） 島津義弘、肥後国守護代になる（1585）
1590	安土・桃山（織豊）	小田原の陣（1590） 文禄の役（1592-1593） 慶長の役（1597-1598）	徳川家康、関東移封 堀尾吉晴、浜松領有（1590） 天守台、石垣、瓦葺建物などの構築	豊臣 徳川家康、二俣城領有（1568） 武田信玄、遠江・三河侵攻 二俣城領有（1572） 徳川家康、二俣城領有（1575）	大友 大友義鑑、肥後国守護になる（1543） 菊池義武、隈本城入城（1550） 大友義鎮、隈本城攻略 城親冬、隈本城主になる（1550）
1600	江戸	関ヶ原の戦い（1600） 江戸幕府開く（1603） 一国一城令（1615）	徳川忠頼、浜松城領有（1600） 三の丸整備	徳川 堀尾氏、出雲移封 徳川忠頼、二俣城領有か このころまでに二俣城・鳥羽山城廃城 幕府直轄地になる	島津 城親賢の援軍として、島津軍が隈本城に入る（1580） 島津義弘、肥後国守護代になる（1585）
1700	江戸		水野・高力・松平・太田・青山・本庄（松平）・井上など、九家 22 代が藩主を務める	徳川 堀尾氏、出雲移封 徳川忠頼、二俣城領有か このころまでに二俣城・鳥羽山城廃城 幕府直轄地になる	島津 城親賢の援軍として、島津軍が隈本城に入る（1580） 島津義弘、肥後国守護代になる（1585）
1800	江戸			徳川 堀尾氏、出雲移封 徳川忠頼、二俣城領有か このころまでに二俣城・鳥羽山城廃城 幕府直轄地になる	島津 城親賢の援軍として、島津軍が隈本城に入る（1580） 島津義弘、肥後国守護代になる（1585）
1900	明治	大政奉還（1868）	地震により被害を受ける（1854・1855） 二の丸・三の丸民間払い下げ（1875） 浜松城公園開設（1950） 浜松城復興天守完成（1958） 浜松城跡市指定史跡になる（1959） 浜松城天守門復元（2014）	豊臣 徳川家康、二俣城領有（1568） 武田信玄、遠江・三河侵攻 二俣城領有（1572） 徳川家康、二俣城領有（1575）	大友 大友義鑑、肥後国守護になる（1543） 菊池義武、隈本城入城（1550） 大友義鎮、隈本城攻略 城親冬、隈本城主になる（1550）
2000	大正 昭和 平成	太平洋戦争（1941－1945）		徳川 堀尾氏、出雲移封 徳川忠頼、二俣城領有か このころまでに二俣城・鳥羽山城廃城 幕府直轄地になる	島津 城親賢の援軍として、島津軍が隈本城に入る（1580） 島津義弘、肥後国守護代になる（1585）

浜松城

天守台や高石垣が残存 徳川家康・堀尾吉晴が基礎を造った地域の拠点

浜松城は、三方原台地の東縁にあたる段丘を利用した城郭です。浜松城と同時に整備が進められた城下町が今の浜松市街地の基礎になっています。浜松城は徳川家康が築城した城郭として知られていますが、築城後、改変と拡張が繰り返されました。なかでも堀尾吉晴による改修は、石垣の構築をはじめ大規模なもので、現在みられる浜松城の基礎となるものです。

戦国時代から江戸時代にかけて、遠江の拠点のひとつとして重要視されていました。江戸時代の浜松城主はめまぐるしく交代しており、九家22代を数えます。城主を務めたのは、いずれも徳川氏と縁の深い家柄で、3代程度で移転しました。



復興天守と復元された天守門

天守台

天守台は、天守曲輪の北西部に構築されています。上から見た形は、一辺約21mの四角形で、西側に突出部があります。東側には付櫓があり、現在は復興天守への入り口として使用されています。石垣には珪岩が用いられています。復興天守建築時に行われた発掘調査では、天守台から井戸が発見されました。

天守台上には、1958年にコンクリート造りの復興天守が建築されました。天守の詳細は不明ですが、古文書などに天守が建っていた記録はなく、江戸時代以降は、天守台のみだったといえます。



復興天守と天守台

門 跡

浜松城には、諸施設に正門と裏門が設けられ、複雑に区切られていました。浜松城の正門にあたる大手門は、三の丸にあり、絵図からは二階建ての櫓門だったことがうかがえます。

天守曲輪には、天守曲輪の正門（天守門）と裏門（埋門）があります。天守門は、天守門は絵図等から櫓門であることが知られていました。発掘調査により、4つの礎石と2つの礎石を抜き取った穴が見つかり、6本の柱を持つ櫓門であることがわかりました。また、屋根から落ちた雨水を排水するため、瓦組の排水設備が設けられていました。これらの調査の成果をもとに2014年に復元されました。



発掘された天守門



富士見櫓東面の石垣

石 垣

浜松城の石垣は天守曲輪や本丸の周囲を中心に分布しています。石垣の石材は、浜名湖北岸地域等で多く産出する珪岩が使用されています。



天守曲輪西面の石垣

古城（引馬城）

土塁や地下遺構が良好な状態で残存していることがわかりました。絵図等からは、江戸時代の引馬城の跡地は古城と呼ばれ、米蔵などに使用されていたことがうかがえます。



引馬城（古城：元城町東照宮）



埋められた堀

埋められた堀

本丸の南にある清水曲輪から絵図には描かれていない堀が見つかりました。堀の中からは、戦国時代の陶磁器が出土しました。石垣の構築に伴い、埋められたと推定できます。

天守曲輪の石塁と南東隅櫓

発掘調査によって、天守曲輪の周囲には石塁がめぐり、南東隅角部には櫓台と瓦集積があることが明らかになりました。集積された瓦は、安土桃山時代の特徴をもつものに限定されています。南東隅に櫓が描かれた絵図はありませんが、安土桃山時代を中心とした時期に櫓があった可能性が指摘できます。



天守曲輪南東隅角部の瓦集積

二俣城

天守台や高石垣が残存 天然の要害に守られた拠点的な山城

二俣城は、天竜川と旧二俣川で三方を囲まれた天然の要害の地にあります。徳川氏と武田氏による激しい争奪戦が繰り広げられた城郭として著名です。二俣城から、旧二俣川を挟んで南対岸の丘陵上には鳥羽山城があり、別城一郭と呼ばれる一連の城でした。二俣城は、丘陵を階段状に加工し、本丸を頂点に、主要な施設を配置しています。本丸や二の丸、西曲輪などの主要な施設が想定される場所に土塁や石垣が構築されています。天守台上からは天竜川が一望でき、天竜川を利用した水上交通を意識した城でもあります。



二俣城と鳥羽山城の立地



二俣城本丸の中仕切門と天守台

天守台

本丸の西側中央部には天守台があり、天守台の西辺は本丸西側土塁を一部取り込んだ状態で構築されています。天守台は上から見た平面形が四角形で、北辺に階段が取り付けられています。石垣の隅角部には算木積みの技法が用いられ、間詰石には河原石や礫が使用されています。

天守の詳細は不明ですが、古文書などに記録はなく、江戸時代以降は天守台のみだったといえます。



大手門

門跡と城内通路

二俣城には大きく、3つの城門がありました。大手筋には大手門があり、二の丸と本丸の境界部分には中仕切門が設けられています。本丸北東部には、搦手門があります。いずれの門にも石垣が構築されています。このうち、中仕切門において発掘調査を実施しました。発掘調査によって、礎石や礎石を抜き取った痕跡が合わせて4つ確認できました。礎石やかつての地表面を覆っていた土砂の中からは、戦国時代末期から江戸時代初めのころの特徴をもつ瓦が出土しました。中仕切門は屋根に瓦を用いた門だったことがうかがえます。二俣城の城内通路は、城の東側から大手道を通り大手門に至るものと、西の丸や三号堀の堀底を通り大手門に至る経路があります。



搦手門



西の丸Ⅰ 西側石垣



西の丸Ⅰの石垣

西の丸Ⅰは、二俣城の西端にあたります。南面と西面の斜面には、石垣が残存しています。石垣は南西部に隅角部を持つ一連の石垣とみられます。南面の石垣は良好な状態で残存しており、高さが約6mあります。二俣城に構築された石垣のなかでも天守台と並び大規模なものです。



三号堀



発掘された二の丸の石垣

石垣の構築場所

二俣城の石垣は、本丸や二の丸などの城の中心部と西の丸Ⅰや南の丸Ⅰの一部に構築されています。

西の丸Ⅰや南の丸Ⅰに構築された石垣は、川口集落に面した場所でのみ確認できます。石垣の構築が重要な部分に限られていることから、川口集落とその周辺が重要視されていたことがうかがえます。

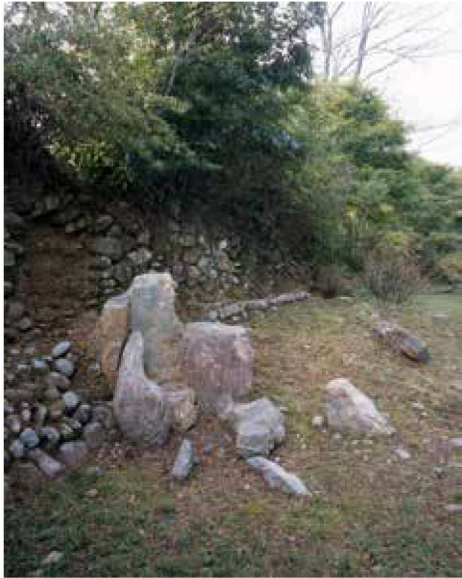
なお、川口集落は、天竜川と二俣川の合流点があり川湊の存在が推定される場所です。また、天竜川を渡り、西へ向かう渡河点でもありました。石垣に面した部分は、水運と陸運が交差する交通の要衝であったことがうかがえます。

鳥羽山城

最大幅 9 m の大手道 京風の枯山水式庭園 迎賓機能を備えた居館か

鳥羽山城は東西 1 km におよぶ独立丘陵を利用して築城されています。独立丘陵には 3 つの頂部があり、西群・中央群・東群の 3 つの遺構群に分けることができます。なかでも、西群は安土桃山時代の城郭の姿をうかがい知ることができる貴重な場所です。

西群は、堀尾氏の領有期間中（1590-1600 年）に石垣が構築され、庭園も構築されたと推定できます。堀尾氏が改築した城の原形は徳川氏の領有期間中に整備が進められたと捉えられます。堀尾氏領有中に整備された鳥羽山城は、最大幅 9 m の幅をもち石垣で荘厳化された大手道や、本丸内に設けられた枯山水式庭園の存在から、迎賓機能を備えた特別な空間として整備されたと捉えられます。



枯山水式庭園

本丸西側土塁際には、枯山水式庭園が構築されています。庭園を持つ山城は少なく、鳥羽山城の性格を示す遺構として注目できます。滝石組や配石からは、京風の意匠が読み取れ、作庭者の見識の高さがうかがえます。



本丸内部の礎石建物

発掘調査によって本丸内部で礎石建物が確認されています。礎石建物は、発掘調査により南に接する庭園遺構よりも古いものと判明しました。

大手道

鳥羽山城の大手道は、城の南東側から本丸南側へと繋がる経路です。大手道は最大幅が 9 m あり、山城の大手道としては、破格の規模です。

大手道の両側には、石垣が構築されていることが、発掘調査により判明しました。また、当時の大手道は、現在の大手道よりも 1 m 以上低かったことが明らかになりました。大手道の先には、高さ 2 m の鉢巻石垣がそびえています。



大手道



大手道北側の石垣

鳥羽山城の石垣の特徴

鳥羽山城の石垣にはチャートの角礫が多く使われ、石材の隙間には、大小様々な大きさの河原石が詰め込まれています。



大手門西側の石垣

岩盤の露頭

鳥羽山城には、チャートの露頭が多くあります。石丁場（採石場）は確認できませんが、現地の石材を使用し石垣を構築した可能性があります。大手道では露頭を石垣に組み込んでいます。



岩盤の露頭と石垣



西の丸 II の露頭



大手門



搦手門



大手門の暗渠

門 跡

鳥羽山城本丸には、大手門・搦手門・東門の 3 つの門があります。大手門と搦手門は幅 6 m と大規模なもので、櫓門だったと考えられます。いっぽう、東門は礎石の配置や構造から埋門と推定できます。いずれの門跡も石垣が構築され、大手門と東門は外枳形を備えています。また、三つの城門には暗渠が設けられ、土塁で囲まれた本丸の排水機能を担っていました。



東門

中央群は、対岸の二俣城との位置関係や構造から、徳川氏が二俣城攻めの際に構築した鳥羽山砦と推定できます。

【東群】

東群は、対岸の二俣城との位置関係や構造から、徳川氏が二俣城攻めの際に構築した鳥羽山砦の付属施設と推定できます。

本丸をめぐる二重の石垣

本丸の周囲には、石垣が構築されています。本丸土塁の外周に構築された鉢巻石垣と、鉢巻石垣の下段に構築された腰巻石垣があります。

天竜川に面した鉢巻石垣の西側部分は、白色の石灰岩が多く使われています。天竜川からの景観を意識した可能性がうかがえます。



鉢巻石垣



腰巻石垣